

ぼくらの魚道製作

～地域の個性・活力をはぐくむ川づくり～

山形県立山形工業高等学校環境システム科

○菅野恭也・○長岡慧・○畑佳希・○松田亨善・○皆本和輝

指導者 大野真也 加藤智一

1 研究動機

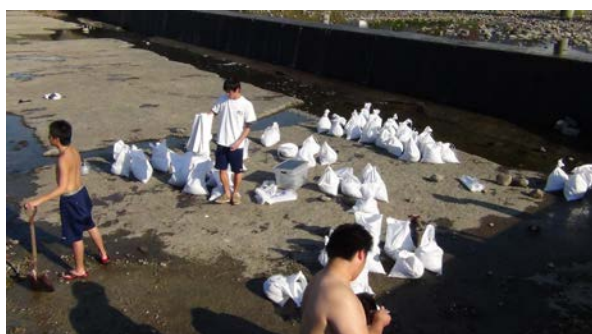
わたしは、きれいな川が好きです。山形市を流れるその代表的な水所、馬見ヶ崎川。景観への配慮、地域の歴史・文化などとの調和、清流の回復。こうした川づくりから、町並みと川が一体となった魅力ある風景が生まれると考えています。その多くの人々が集まるにぎわいの場が整備されていますが、コンクリートで覆われる河川は寂しく感じます。川を身近に感じたいという思いから研究に取り組みました。



2 簡易魚道の研究

増水時や防水対策時に使用される土嚢袋で簡易魚道が製作できないか検討し、実際に設置し調査。

- ① 河川調査・生物調査
- ② 土嚢袋による簡易魚道の検討
土嚢についての学ぶ・設置場所検討
- ③ 実施 魚道設置 ④ 調査



3 結果・まとめ

今回の私達が、魚道を設置した場所に鮭が遡上してきていることが判明した。話には聞いていたが、実際遡上途中でこれ以上遡上できずに力尽きた鮭を見て何とも言えない気持ちになった。しかし、そこには、コンクリートで覆われた河川に負けずに遡上した強く逞しい命を継ぐ鮭たち DNA (卵) が受け継がれていた。



土嚢による簡易魚道は、遡上時期に設置すれば多くの魚類が遡上できるようになる。土嚢魚道は、小さな子供から高齢者の方でも作り易いため、地域参加型の環境教育が出来る構造物であると思う。



最後に、頑張れ鮭。
そして後輩達、鮭と共に生きよ。